

2012年8月13日～16日・杉並区施設「富士学園」 福島の子ども保養プロジェクト・杉並

アンケートから

★小学校中高学年以上を対象にした保養プロジェクトが多い中、それより小さい子どもも参加できるということで、我が家としては大変助かりました。去年は、福島県民に対する差別の話など、まわりから聞くことが多かったため、福島県外に出ることに恐怖を感じ、旅行を躊躇することもありました。様々な保養プロジェクトがあることを知ったのは今年になってからで、福島の子どもたちは見捨てられていなかった、と思うと本当に感謝の気持ちでいっぱいになります。

★小学生も中学生も、親と一緒に参加できて、中身の濃い4日間になりました。工作や、自然の中での遊びや、富士山のこなど勉強になって、夏休みを凝縮して楽しく過ごすことが出来ました。

★とても楽しかったです!!他県に引越す一歩が出ないので、こういう保養を利用して少しでも線量をさげたく参加しました。また明日から現実に戻ります。帰りたくないですが、福島でがんばります。ありがとうございました!!

★仕事が休みの時期の保養でありがたかったです。子どもたちの要望もすべてかなえていただき、ありがとうございました。企画も魅力的なものばかりで大満足です。富士学園も快適でした。

★小さな子どもを連れて、家族で参加できるということで加しました。心身ともにリフレッシュできました。富士五合目までの時には、子どもを預かってくださり、とても感謝しています。お食事もおいしかったです。子どもが小さいので心配でしたが、思い切って参加してとてもよかったです。

★安心してたくさん外遊びが出来、本当に親子ともども、すごくよい保養になったと思います。スタッフのみなさまもとても親切で、子どもたちは親からはなれてどんどん話しかけて、イベントに参加できたので、よい経験になったと思います。

★お盆の時期はいつも家の中で過ごすことが多く、この時期に保養をしていただき、とてもよかったです。子どももすっかり気に入って、帰りたくないといっていました。久しぶりに子どもが、思いっきり汗をかいて楽しそうに遊ぶ姿を見て、それだけでもこの保養に参加してよかったなあと、しみじみ思いました。なんだか、子どものあるべき姿を見て、今はとても複雑な気持ちです。また福島での生活を考えると...

★天気が悪くて残念でしたが、初!!富士山見れてよかったです。富士学園もキレイなところで、自然たっぷりサイコーでした。ゆっくりした時間を過ごすことができ、リフレッシュになりました。またみなさんに会えたらいいな。

福島の子ども保養プロジェクト杉並の会・会計報告(2012.9.15現在)

収入の部	
カンパ	2,501,966
参加者納入金	142,850
雑収入	20,086
計	2,664,902
支出の部	
旅行・ボランティア保険	26,628
送迎バス諸費用	328,340
宿泊諸経費	1,094,890
運営費	113,364
計	1,563,222
繰越金	1,101,680
総計	2,664,902

カンパは、1000人を超える個人と下記の団体からご支援を頂きました。
杉並区福島県人会、脱原発杉並集會実行委員会、子どものみらい南相馬・高円寺、NPO法人てんぐるま、高円寺純情商店街、高円寺あづま通り商店街、高円寺中通商栄会、高円寺中通町会、高円寺北中通商栄会、城南信用金庫高円寺支店、杉並の教育を考えるみんなの会、都教組杉並支部、杉並区教職員組合、杉並区職労

「福島の子ども保養」の活動は継続することになりました。
カンパは、引き続き受付しています。

郵便振替 口座記号番号 00170-7-655815
加入者名 「福島の子供保養プロジェクト・杉並の会」

はじめに

富士山麓にある杉並区の施設「富士学園」に福島在住の親子32人をお招きして、自然を満喫してもらおうと、8月13日から3泊4日で計画した「福島の子ども保養」は、無事終了することができました。

今回、初めての試みで準備期間が少なく、資金面を含めて実施を危ぶむ声もありましたが、杉並区教育委員会の後援を得て、1000人を超える個人、地元商店街、労働組合、各市民団体など、多くの方々から賛同をいただき、予想を超えるカンパが寄せられました。そして、16歳～70歳の延べ20人の多才なボランティアスタッフの協力で、充実した保養内容にすることができました。

何よりも嬉しかったのは、子どもたちがわずかな時間も惜しんで、無心に遊んでいたことです。その笑顔が、「放射能を気にしないで遊べる」という日常がどんなに大切なものであるのかを私たちに教えてくれました。

お父さんお母さん方が車座になり、スタッフを交えてあちこちで談笑する姿も見られ、「福島に住んでいる」ことの悩みを共有してほしいという切実さも伝わってきました。本当にやってよかったと実感させていただきました。福島の参加者からは来年もぜひやってほしいという要望がたくさん寄せられています。私たちが是非、継続的な取り組みとして、来年も実現できるように努力したいと考えています。

ご協力いただいたすべてのみなさまに、心から感謝申し上げます。

2012年10月 「福島の子ども保養プロジェクト・杉並」実行委員長 長谷川 和男

チェルノブイリの子どもたちが1カ月のサナトリウムで保養との話を聞き、なかしたいという思いで福島の子ども保養プロジェクトは始まりました。2カ月もない短期間、お盆の時期の不安も抱えていました。しかし、申込者は応募を始めて2日目には25名の定員を超え、10家族32人に増えました。部活や仕事を休めるお盆、親子参加の保養なので応募したという方が多くいました。

本当に取り組んで良かったと思えた一つは、自然豊かな富士の裾野で解き放たれたように思いっきり体を動かして遊びまわる子どもと見守る親のやさしい表情に接した時でした。子ども本来の姿、今まで当たり前の日常の大切さであり、逆に奪われた悲しみです。また、福島で暮らさざるをえない中での生活や健康、差別、将来への不安・悩みを数多く伺いました。

放射能の不安はすぐ消えず、私たちは福島の子どもたちの健康を守る保養の取組を継続しなければと考えています。もっと広範な人の力で進めていきたい。そして、それが一日も早く、日本の「まつりごと」として行われることを願いながら。

事務局長 齊藤 正明